

IV 所見

- 1 全体的に見て、AまたはBの評価が多く、C、Dの評価は少ない。このデータを見る限り、当初の目標を達成できているように見える。しかし、実際に授業をしている状況を見てみると、もう少しCの評価が高くなっていいのではないかとと思われる。この点、生徒自身の自己評価が甘くなっている可能性もあり、また、学級の点検表からも、教科担当者の評価が甘く出てしまっているのではないか、と思われる部分もある。

特に、「1. 制服を正しく着用し、正しい頭髪を維持する。」ではA,Bと回答した比率が非常に高い。しかし、現状はかならずしもそうではなさそうである。

このあたり、月間目標は厳しい目で評価し、より現状を反映しているものでなくてはならない。

また、第1学年においては、「2.来校者、教員に対し、きちんと停止礼をする。」「5.本校生としての自覚を持ち、教養を実践する。」「6.7つの習慣Jを学習し、実践する」の3つの項目に対し「D;全くできていなかった」との評価が出ている。本校に入学して間もない時期であり、そこまで意識をもつことが出来ない生徒がいてもおかしくはないが、本校の柱になっている部分であり、今後、機会指導を十分に行い生徒の意識を変える指導を期待したい。

一方、教養部によるとハーベストマインドカードは予想をはるかに上回る発行数である。申告の仕方が変わったとはいえ良いことである。生徒もやる気、意欲が出る取り組みである。

褒めるところではしっかりと褒め、注意、反省を要するところでは見逃すことなく注意を与える、といった、メリハリのある指導が必要である。